B17 室内塵におけるニクダニの異常発生例－濾過法を用いた定量的検討－真喜屋清[○] (産医大 寄生虫・熱帯医学)・池上 寛・北村尚男(北九州市保健所)

Unusual increase of Glycyphagid mite in house dusts – a quantitative analysis using the filtration technique –

Makiya K.[○], Ikegami I. and Kitamura H.

今回われわれは冬季に一般住宅で起こったニクダニの異常発生例を経験した。住宅は4階コンクリート建て公務員住宅の最上階、2人住まいの3Kの部屋である。ダニの異常発生に気づき、昨年12月中旬以前に殺虫剤を散布したがダニの発生が止まないために家人がノイローゼ気味になったとの訴えを受けて、同月下旬掃除機で室内塵を採取してダニ相の定量的な検討を行った。室内塵の採取は、床面1平方メートルからオーガンジーで裏打ちした25 μ ナイロンメッシュを用いた吸入法で行い、室内塵からのダニの捕集・標本作製はナイロンメッシュ濾過法(真喜屋ら, 1997)を用いて行った。その結果、得られたダニ164匹(うち脱皮殻が20匹)のうちニクダニが98.8%を占め、棲息密度・抱卵雌の比率・脱皮殻の割合とも板の間よりも畳の部屋で高かった。密度は細塵(9メッシュ標準篩通過塵)1g当たり23万匹以上と推定され、他の民家より遥かに高いのが観察された。

B18 布団中のヒョウヒダニ数とアレルゲン (*Der 1*) 量調査武藤敦彦[○]、皆川恵子、田中生男(日環センター)、安枝 浩(国立相模原病院)、河野洋一(千葉大・医)、小屋二六、鈴木五男(東邦大・医)、

永倉俊和(慈恵医大)、永山洋子(千葉県立こども病院)

Investigation of the number of *Dermatophagoides* and amount of allergen (*Der 1*) in futon.

Muto A., Minagawa K., Tanaka I., Yasueda H., Kono Y., Koya N., Suzuki I., Nagakura T. and Nagayama Y.

30×30cmの小布団を、就寝時に寝具内に置いて寝るよう指示し、1年後にこれらを回収して中綿中のヒョウヒダニ数とアレルゲン量を測定した。小布団は、側地、中綿、縫製方法などが市販品と同じになるよう、布団メーカー数社に作製依頼した。全30サンプルにつき、ダニ数については中綿0.3g(0.1g×3回)、アレルゲン量については0.2gについて調査した結果、ダニ数は0～5匹/0.3g、*Der 1*量は0～564ng/gで、ダニ数の増加につれて*Der 1*量も増加する傾向が見られた。ダニ数0の場合の*Der 1*量は<0.4～143ng、ダニ数1の場合は4.97～311ng、ダニ数3の場合は324～564ngの範囲にあった。防ダニ加工された布団のダニ数および*Der 1*量は防ダニ加工されていない対照布団に比べて少ない傾向が見られた。